

令和 4 年第 2 回定例会

大野誠一郎による質疑応答全文（2022 年 6 月 9 日）

【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は当ホームページ掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。

大野誠一郎

2 日目の最後の出番ですので、よろしくお願いします。

通告いたしました内容につきましては、1.道の駅の再検証について、2.牛久沼の利活用についてを質問したいと思います。

はじめに、道の駅の再検証について質問いたします。

3 月の議会の中で、道の駅の検証については、どういったポイントで検証するのかと、そういう質問に対して、市長は、「道の駅整備事業の在り方を判断していくためには、建設事業費を再算定すること、運営費や収支状況の検証などが必要と考えております」こういったふうに答弁しております。

最初に、建設事業費を再算定するということについて、どういう検証が行われるのか答弁をお願いしたいと思います。

木村博貴市長公室長

再検証についてでございます。

建設事業費ということでございますので、道の駅基本構想は、基本計画でお示しております土木工事や地域振興施設の建築工事をはじめ、設備工事、電気工事など、この間、関係者との協議により進めてきました各種設計を基に、道の駅整備に必要な各種工事費などの概算事業費などを再算定してまいります。

その中では、護岸改修見直しに係る修正設計による工事費や上下水道のインフラ整備工事の事業費なども進めてまいりたいと考えております。

なお、再検証に際しましては、発注時期を見据えた資材や人件費などを含む工事の物価変動なども考慮してまいりたいと考えているところでございます。

大野誠一郎

市長に答弁を願ったもので、市長に答弁を求めます。

道の駅整備事業について、これまでの基本設計につきまして、この建設整備事業につきましては、幾らであるかを認識していますか、これまでの金額。そしてまた、その金額が幾らであるのか、それが妥当であるのかをお尋ねしたいと思います。

萩原勇市長

道の駅の整備事業の状況がどうなっているか。当初の計画では、事業費が約 17 億円ということでありました。その後、護岸工事の見直しなど現時点でどのぐらいの事業費になるのか、事業の状況によって、市民の皆さんにきちっとお知らせし、議論をしていかなければならないと思っております。

大野誠一郎

今の答弁では、ちょっと答弁不足であります。

17 億というのは、基本設計の金額でございます。それプラス上下水道あるいは護岸工事の金額が増したわけですから、そのことについての金額は、つまり今認識しておる金額は幾らであるのかと。そしてまた、検証するということは、先ほど公室長がお話したようないろいろな物価のスライドの件もあるということなんですけれども、それも踏まえて、萩原市長は、どれだけの値段だったら、金額だったら、妥当なものかという内容をやっぱり示すべきではないかと思います。答弁願います。

萩原勇市長

石引議員のときにも答弁をしました。先ほど 17 億と言いましたが、既に投入された事業費と今後必要となる 20 億円を超えるであろう整備事業費、また、道の駅しょうなんだとか、かさまにおけるにぎわいだとか、道の駅の可能性、シビックプライドの醸成、貴重な地域資源である牛久沼の活用、道路管理者である国土交通省との一体型整備事業として進めてきた経緯、こういったことを事業の方向性を判断するためにやっていくと考えております。

20 億円を超えるということで、今はまだ調査中でございます。

大野誠一郎

20 億あるいは 20 億以上という答弁でした。私は 22 億ぐらいかかりそうだと思いますが、というか今までのもので。

それで、検証するということは、ただ金額を見直せばいいというものではないと思います。したがって、このぐらいの金額で許されるものか、あるいはこれ以上だったらちょっと財政的に厳しいと、そういう内容で検証するのではないかと思います、私は。

言うなれば、これからの内容についても同じなんですけれども、表現がいいかどうか分かりませんけれども、鉛筆なめなめで幾らでも数字は変わるものなんです。それと、利用者数がどれだけ来てもらえるかを考えることによって、さらにグレードを上げなくちゃならないとか、あるいは財政上の理由でグレードを下げるしかないとか、そういうことも含まれるわけなんです。

したがって、ただ物価スライドや、いろいろなもろもろの事情で整備事業を再算定をすればいいというものではないと思います。検証をするわけです。

まず、市長にお尋ねしたいのは、公約に道の駅の再検証、そして 1 月の最初の第 1 回目の議会の中で、所信表明の中にも道の駅の再検証というものが出ております。先ほどの後藤光秀議員の市長の思いはどうなんでしょうかということなんですけれども、私は、市長の今の気持ちの思いだろうと思って考えています。というのは、これまでに事業費が具体的に言えば 1 億 8,200 万ぐらいかかっているんですよ。ですから、そういう事業費が既にかかっている、それから牛久沼の利活用も考えるしかないんだよと、それから国交省との関係も考えていかなくちゃならないと話したのは、私は今の心境だろうと思います。

ですから、私がお尋ねしたいのは、公約に道の駅の再検証、所信表明についての道の駅の再検証、そのときの気持ちはどうだったんだろうか。つまり継続すべき気持が強いのか、中止をする気持が強かったのか。恐らく有権者は、道の駅の再検証ということになれば、やらないんであろうという、私は期待を持って投票したかもしれません、私は。

そういうことで、公約あるいは所信表明をやったときの思いをお願いしたいと思います。

萩原勇市長

思いといいますか、私がこの12月の選挙戦でやる中で、道の駅の再検証ということで、私のリーフに書かせていただきました。そういった中で、市民の皆さんから、いろいろな反応があります。つくらないのかという反応もあれば、もうやめたほうがいいよという反応もあります。そういう思いをちゃんと皆さんに、今、再検証をさせていただいて、どういう状況なのか判断してもらう材料をしっかり示すことが私の責任であると思っています。

そこで、例えば市民の意見を聞くために、どのような手法があるのか、そういったことも含めて、やはり皆さんにこういう状況だよという、示させていただいて、その道の駅について考えていきたい。なので、再検証と書かせていただきました。

ですから、いろいろな議員からも説明したとおり、10月ぐらいにはそういったところが皆さんに示せるように、今、検証作業をしています。

大野誠一郎

市長、私が聞いたのは、公約に書いたときの気持ち、それから所信表明をしたときの気持ちをご披露していただきたいと、そういうお話をしています。

今、市長が言ったことは、公約に書いた後、やめたほうがいいとか、やったほうがいいという反応があったので、いろいろな再検証をしてお示ししたい、そして意見をいただきたいということとは、私は違うと思うんですよ。書いたときの気持ち。

私、3月の議会で話ししましたけれども、現職市長が続けていくということであるならば、言うなれば対立候補としては、道の駅の再検証は対立軸、そういう意味で、むしろつくらないほうに傾いていると、そういう意思表示のように私は思うんです。そしてまた、多くの人もそう思ったと思います。そのことでお尋ねしているんです。そのときに何ら考えもなかったといえ、それはそれで結構ですが、そのときのことを答弁していただきたいと思います。

萩原勇市長

私が県議会議員時代の話だと思います。先ほども申し上げたとおり、いろいろな方から聞きました。やるやらない、いろいろな方からありました。そして、県議会議員を引退した後ですね。引退した後に、選挙戦に挑んだときですね、それを書いたとき。それを書いたときは実際には県議会議員でした。その後、11月1日に辞職をしていますので、その辺のところだと思うんですが、そのときに市のほうでも、私のほうに説明をしに来ました。図面を持って。大体17億ぐらいかかる。そして人が大体70万人ぐらい来るだろうというようなお話を聞きました。

そこで、私とその県議会時代に説明に来たときは、何年前だかちょっと覚えておりませんが、今のその道

の駅につきましては、本当に 70 万人あそこに来るのか、70 万人来ると一人 1,000 円もし落としていただくと約 7 億円入る計算になります。本当にその道の駅に一人 1,000 円使っていただくような道の駅になるんでしょうかと、これ本当に 70 万人が達成できれば、これはいい道の駅になっていくのかもしれないという話は、そのときは思っておりました。

ただ、いろいろなその護岸工事の算定がちょっと甘かったとか、いろいろな問題があって、この市議会の中でも 17 億以上かかるんだったら、どうなんだろうというような市議会の皆さんの思いもあると思います。私もそういう思いを感じながら、そんな、ただやめるというわけではなくて、やはり皆さんの思いと、ただそのときに示されたのが、よくその事業計画、事業費等もまだ示されておりませんでした。なので、市民が分からない状態が続いていた。だから、市民にまず分かっていただく、そういう思いで、再検証というふうに書かせていただきました。

そして今、そういう計画について、事業費等について調べている、検証をしている最中でございます。

大野誠一郎

要約すると、道の駅については疑問があったというふうに理解してよろしいでしょうか。

それで、ただいま道の駅の建設費については、検証を進めていますということですが、今までの基本設計の中で進めていく、それでよろしいんでしょうか。というのは、先ほど申しましたように、グレードを上げる、上げなくちゃ、今、市長が言ったような 70 万以上の人が来なくちゃしょうがないだろうと、そういうふうにグレードを上げる。そういうことはもう全然しないで、あるいはグレードも下げる、そういうこともしないで、多分 7 年前だと思いますけれども、7 年前の基本設計のままで建設費の再算定をするというふうに考えてよろしいんですか。

木村博貴市長公室長

事業費の算定につきましては、あくまで基本計画を基に算定していくことになると思います。

大野誠一郎

先ほどもまた発言しましたがけれども、平成 29 年 2 月にこの基本計画ができました。その中で、上下水道あるいはその他を除いた金額が 17 億 1,000 万ということになります。そして、その再算定をするということは、二度も言いますが、そういう物価スライドやその他のもろもろの事情を鑑みて建設費を算定するというのは、私は再検証ではないんですよ。

そういうことで、先ほどからお尋ねしているのは、一体幾らなら許容できるのか、そういうラインを示さないと、単なる見直しになっちゃうんですよ。そういうことで、私はその許容できる範囲は幾らなのか、それをお尋ねしています。

萩原勇市長

私がというか、今、執行部といろいろと調整をしながら決めさせていただいておりますが、私、判断をさせていただきたいと思うポイント、これは事業費の多寡も重要なポイントの一つであろうと思いますが、十分に概算事業費だけに捉われず、様々な視点から検討して総合的に判断してまいりたいと思います。概算事業費の再算定、これもその方向性を判断する一つの材料であると思います。

大野誠一郎

なぜこのように詳細にというか、聞きたいのかというと、3月の議会に金剛寺議員、私と二人とも再検証について、どのような検証をするのかと、そういう話をして、その答弁が道の駅の再算定、それからこれからやります運営費や収支状況を鑑みてということなんです。ですから、どのように再検証するのか、見直し駄目ですよということを言っているわけです。

その金額はちょっと概算事業費は出てこないということでもって、先へ進めます。

運営費については、どのような再検証をするんですか。

木村博貴市長公室長

管理運営に係る収支状況につきましては、類似する複数の道の駅に対し、前面道路の交通量ですとか、駐車場台数をはじめ、利用者数及び物販、飲食売上げ額などの聞き取り調査を行い、これらを基に収支シミュレーションを実施してまいりたいと考えております。

検証に際しましては、指定管理候補者などへのヒアリングも予定しており、この中で、道の駅整備事業の採算性や有効性を図ってまいりたいと考えております。

まず、類似する複数の道の駅のヒアリングから実態を調査していきたいと考えているところであります。

大野誠一郎

平成29年2月の道の駅の基本計画につきましても、幾つかの道の駅については参考にしてと述べています。7年後の今の状態を調べるという、そういう意味ですか。

木村博貴市長公室長

もちろん、その基本計画策定時の状況から変わっている部分も調査をさせていただくことになろうかと思いますが、市長も石引議員、後藤議員の質問に答えたとおり、にぎわっている、しょうなんですとか、かさまのところをちょっと教えていただけるかどうかは分かりませんが、聞き取りなんかをしながら調査をしたいと思っておりますので、ご理解のほうをお願いしたいと思います。

大野誠一郎

運営費や収支状況でもそうなんです、私はこの基本計画は、一番の基は、6号国道を通過する車の台数、年間1,332万台、それを基にして利用者数を70万人とか、80万人とか、90万人とかを算出して、それから今度は客単価、70万人来た場合には、一人客単価、物販については1,300円、飲食にしては700円、先ほど市長が1,000円というような客単価言ったんですけれども、こういう基本設計では、客単価が1,300円、飲食は700円ということになっております。そして、それを基にして幾ら売上げ金額が出る。その売上げ金額、希望する売上げの金額を出すためには、平米当たり幾らの金額が必要だということだから、床面積を割り出しているんです。その床面積に基づいて、どれだけの建設費がかかるのかということをやっているわけなんです。ですから、本当に鉛筆のなめなめでできちゃうんですよ。だからこそ、そういう内容を許容できる範囲は考えておくべきじゃないかと、そういう話をしているんです。

不十分ながら、運営費については聞きました。収支状況については、どういう検証をするのかをお尋ね

いたします。

木村博貴市長公室長

収支状況につきましては、今、大野議員からもありましたけれども、交通量がまず、前回、基本計画を作成したときには、平成 25 年の交通量を基に利用客を算定して、そこから客単価なんかを掛けて収入を求めたという経緯があるかと思いますが、まず、交通量も今、一番新しいので公表されているのでは平成 27 年になりますが、もうちょっと新しいのがあれば、国土交通省さんのほうからちょっとご提供いただきながら、そちらのほうで算出していくようなことになろうかと思いますが、やはりこの収支状況、収入が一番のあれだと思いますが、そこにつきましては、道の駅の聞き取りなんかをしながら客単価、そういったことを把握しながらシミュレーションを行っていくというような形になろうかと思います。

大野誠一郎

言うなれば、採算が取れる道の駅が重要かと思います。そういうわけで、再検証については収支状況を検証するというようなお話だったかと思います。この収支状況についても、年間利用客数でえらい違います。管理運営調査の中では、50 万人、60 万人、70 万人、90 万人というものを想定して書かれております。それについても数字は幾らでも変えることができます。今、木村公室長が言ったような客単価も検討していく。先ほどお話ししました客単価は、基本計画の中では、物販は一人 1,300 円、飲食は 700 円、それが 100 円違っても 70 万人掛けるんだったら随分違うわけです。

それで、収支状況どれだけの赤字なら許容できるんですか。

萩原勇市長

今、検証中ということは何度も申し上げておりますが、やはり赤字になるようであれば、これは市民に対しても説明がつかない状況になると思いますので、その辺についても今、調査研究させていただきます。

大野誠一郎

いきなり赤字の話をして申し訳ないんですが、もう一つ答弁していただきたい。例えば、道の駅事業について 20 億円かかった場合に、どれだけ回収できるかというと思いますか。半分、全額。市民感覚でいえば、やはり 20 億円かかったならば、やはり収益施設ですから 20 億円取り戻したいと思うのが普通だと思います。答弁お願いしたいと思います。

萩原勇市長

その 20 億円の考え方についてなんですが、これはまだ市内でもやっておりませんが、黒字が出れば、例えば 20 億円を返すのに、年間 2 億円の黒字があれば 10 年で返せるという計算になりますけれども、その黒字にするのには、やはり来ていただかないという考え方もありますし、どれだけ牛久沼に魅力等々をつくっていくかということも考えなければならないというふうに思います。

そういったことを議員のご指摘も踏まえながら、考えさせていただきたいと思います。

大野誠一郎

市長から答弁があったんですが、この基本計画の中では 17 億 1,000 万円かかるということで、基本計画の中ではなっておりますが、その道の駅整備事業にかかる 17 億円については、8 億円しか計上していない。そしてまた 4 億円を長年のスパンで、つまり耐用年数の長いやつは 34 年、大まか耐用年数十五、六年の形で 70 万人毎年来れば 4 億円返せると、そういう設定なんです。これは固定費として。

それから、変動賃料としては、売上げに応じて 1,000 万円以下はゼロ、3,000 万円以上の利益があった場合には 15%と、そういう納付金を納めるということで、こういう基本計画、随分お金をかけた委託された基本計画ですよ。なぜあえて 17 億円の事業費を費やしたならば幾ら戻ってくるんですかというのをあえて聞いたんです。ですから、減価償却を少なめにすれば黒字が出ます。減価償却を 17 億円のうち 15 億円ぐらいは返してもらおうと思ったら、黒字は出ないでしょう、指定管理者の営業利益、黒字は出ないんです。そういうことも一つ検証をしていただきたい。

それプラス納付料の 1,000 万円利益があったときにはゼロ、3,000 万円以上は 15%をもらう。3,000 万円の場合は 15%になれば 450 万円でしょう、恐らく。市に 450 万円納付はされますが、2,550 万円は業者に利益として入るわけです。ですから、全く減価償却しないでも、多くても 4 億円、5 億円ぐらいで回収はできません。そういったことも検証していただいて、また、市民の皆さん方に協議をしていただきたいと思います。

次に移ります。

国交省との十分な協議をしていくということでございます。4 月 19 日に国交省との協議を行ったということでございますけれども、その国交省との十分な協議とは、どういうことなのかをお尋ねしたいと思います。室長、お願いします。

木村博貴市長公室長

まず、4 月 19 日の協議の件につきましては、国交省も来年度の概算の予算の要望がございまして、そういったことも含めて、今年度は再検証に充てさせていただくということをお話ししてきたということでございます。

また、国交省とのこれからの協議でございまして、ご承知のように、本道の駅につきましては、道路管理者である国土交通省との一体型整備として進めてきているものでございまして、国土交通省においては、事業を起こされた道の駅でございまして。再検証に当たっての協議内容ということでございまして、先ほどもありましたが、スケジュール等の協議をしていくことが主なものにはなりますが、協議ということで一くくりとはなっておりますけれども、再検証を行う中で交通量に関する最新の情報を提供していただいたり、アドバイスなどを求めることは十分に想定できるものと考えております。

大野誠一郎

車の交通量に関しての、最新でいえば平成 27 年ですか、そのことについて、私は求めても本当に参考値ぐらいだと思いますし、やはりその台数を調べるのは、一番最新の、今年なら今年の、市のほうで責任を持って調べることだと思います。なぜかというならば、通行の車が一番の計算の基になっているんですから、本当に大事なことですよ。

それと、国交省の協議ということに戻りますが、国交省と龍ヶ崎市との覚書が平成 29 年 3 月 8 日、

もう一つ、龍ヶ崎市道の駅の設計施工に関する覚書が平成 30 年 7 月 5 日にあります。

平成 29 年 3 月 8 日の覚書は、国土交通省が設置予定している休憩施設及び龍ヶ崎市が設置予定している地域連携施設については、道の駅として有効に利用できるよう相互に協力をする。これは大体これだけです。大事なことは。

それから、龍ヶ崎市道の駅の設計施工に関する覚書は、言うなれば龍ヶ崎市の分、あるいは国交省の分は、お互いに設計施工するというような覚書だと思います。

もう十分な協議はしていると思います。ですから、なぜ十分な協議をするのかなというふうに思っているわけです。

それと、覚書についてのペナルティー、もし中止した場合のペナルティー、そういったものはあるんでしょうか。

木村博貴市長公室長

平成 29 年 3 月 8 日に交わした覚書、また 30 年 7 月 5 日に取り交わした覚書、施工区分に関する覚書になるかと思いますが、そちらの覚書を見てみますと、そういったペナルティーに関する記載はございません。

大野誠一郎

ということは、多少国交省の心証は悪くはなるかもしれませんが、覚書のとおり、何も書いていないというふうに思っております。そういった意味では、国交省との関わりについて、フリーハンドであるというふうに考えますが、市長はどう思いますか。

萩原勇市長

国交大臣にお願いした経緯等々がこの龍ヶ崎市にはありますので、そういったところは丁寧に対応していきたいと思っております。

そして、何よりも信頼関係というものが、やはり国ともしっかりとつくっていききたいと思っておりますので、そういったところをしっかりと丁寧に対応していきたいと思います。

大野誠一郎

次に、再検証を行うに当たっての市民の関わりについてをお尋ねいたします。市長からお願いいたします。

萩原勇市長

石引議員にも答弁をいたしましたが、護岸改修工事の中止以降、道の駅整備事業が中断している状態にあります。事業の状況について正確に、そして必要な情報がきちんと市民の皆さんに伝わっていないのではないかと考えております。

こうしたことから、改めて道の駅整備に必要な概算事業費、利用者数等を整理した検証内容について、その根拠も含め、本年 10 月を目途に取りまとめた上で公表し、アンケートやヒアリングなどを通して、市民の皆様、議員の皆様のご意見を拝聴してまいりたいと思っております。そして、それらを通して、私が総合的に判断をさせていただきたいと考えております。

事業を実施するしないの判断をしてから、市民に説明するといったことではございませんので、何とぞご

理解をお願いしたいと思います。

大野誠一郎

市長の公約をまた持ち出しますが、みんなで作る龍ヶ崎の新時代、これは私は市長の核心だと思いますよ。核心の真ん中、その片りんも見えない、感じない、1月18日就任をして、これまでの間、みんなで作る龍ヶ崎の新時代、この片りんすら見えない。なぜかといえば、今の質問でいえばアンケート、ヒアリング、これまでやっていた以下ですよ。皆さんの声、前市長だってそれなりに声を聞いてきました。前々市長、全部そうですよ。そういうアンケート、ヒアリングであるならば、みんなで作る龍ヶ崎の新時代を標榜する市長にとっては、私はそれ以下だと思って考えています。恐らく最上位計画についてもそういうみんなで作る龍ヶ崎の新時代にはならないと思います。それ以外はないんですか、尋ねたいと思います。答弁願います。

萩原勇市長

アンケート、ヒアリング、これは龍ヶ崎の7万6,000人の市民がおります。全員一人ひとりから聞くことは困難かと思えます。なので、そういう手法も取り入れたいと思います。あとは、私もこれから出前市長室等々で、これから市民のほうに出ていろいろな説明をしてまいります。そういったときに、市民の皆さんの声をしっかりと聞いていきたいと思っております。

大野誠一郎

ぜひ市長、新しいみんなで作る龍ヶ崎の新時代を考えていただきたいと思います。

以上、牛久沼の利活用につきましては、予告編ということで、次回やらせていただきます。

----- 以上 -----